

喜寿談議

還暦・古希そして

文・写真 (株)地域サービス代表取締役

永井 英彰

盛大に支援協議会総会開く

剣山世界農業遺産、出版会も

特異な開放的団体

9月13日、ザ・グラントパレス（徳島市寺島本町西）で、徳島剣山世界農業遺産支援協議会を結成後、初の総会を開催した。総会には県外からの20人を含め、120人を超す人達が集まってくれた。会長である筆者は次のように挨拶した。

「国が地方再生を打ち出す前から、世界農業遺産の指定を受けることが、地方再生になると考えて、関係資料の収集を始め、行政に『推進協議会』の設立を促してきた。昨年7月、その組織が三好市、美馬市、東みよし町、つるぎ町

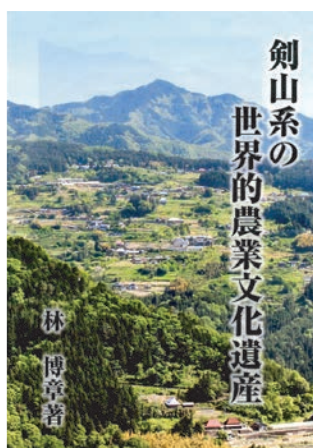
の2市2町で結成されるのを待って、『支援協議会』を立ち上げた。それ以降も30回以上の調査活動などを自費で重ねてきた。目先の利益を目的としない方針に関心を示す人の輪が広がり、本日お集りの皆様と一堂に会する事が出来た。この運動に対し、徳島銀行から35万円の助成金を贈られ、心から感謝している。私達は農業遺産の指定を目的としている。しかし、現在では指定された後をどうするか、に移行している。剣山は四国の水瓶であり、その恩恵を受けるのは県西2市2町に限らない。それなら指定地域を広げて開放的な方向に進めても

良いのではないかと考えている。支援協議会には多分野の人材が揃っており、歴史のある農業の保全と共に、それを生かした観光や農産品の販売など新しい産業の創生もできるのではないかと夢を膨らませている。縄文時代から延々と続く剣山系の農業に敬意を表するとともに、次の世代にも引き継がれて欲しいと強く望んでいる。皆様の発案、協力をお願いする」。

事業報告はパワーポイントを使い訪問先を映像で表示、山城町の鉦踊りやつるぎ町の数珠回しは音楽も流せて好評だった。

写真2700枚の本

続いて鳴門渦潮高校・林博章先生の最新刊本「剣山系の世界的農業文化遺産」の出版記念パーティが開かれた。オーブンングセレモニーはNPO法人「太古の楽校」の大大鼓と吉野川市鴨島町、吉野美苑さんの「創生」の大書だった。



林博章氏の最新刊本



出版パーティに120人集う



「創生」書いた吉野美苑さんを囲んで

大麻比古神社へ作品奉納
マークエステルさん(右)と園藤泰久宮司

剣山系は 多様性の宝庫

林先生は次のように記念講演をした(要

エンサイクロペディアだ」と祝辞を述べられた。

旨)。①美馬市穴吹町測名に石棒が祀られていた事②石川県羽咋市勤務の高野誠鮮氏(ローマ法王に米を食べさせた男の著者)に剣山系の写真を見せて太鼓判を押してもらった事③の二つから世界農業遺産を確信した。傾斜地はフラットの段々畑にするのが普通だが、そうすると水が溜まり根腐れする。剣山系は傾斜地のまま等高線農業をしている。そこにカヤを使うのだから伝統的に有機農業である。土の流出を防ぐ石積みも見事である。ソバやあずきの干し物は災害対策になる。梅の木の下でフキを栽培するなど巧みに多様性を取り入れている。巨樹への畏敬など信仰と多様な習俗も残していることは素晴らしい。

マークエステル画伯

総会と出版記念パーティにフランス人の画伯マークエステル氏(千葉県成田市在住)がH&T濱崎佐和子代表取締役と共に出席された。彼はラオスのフランス大使館勤務の後、大阪万博に訪れた折、清水寺の水墨画の美しさに感銘を受け、画家に転身。神話を題材に制作し、伊勢神宮を皮切りに神社等へ146の作品を奉納している。翌

14日、147点目の作品を鳴門市の大麻比古神社へ奉納した。彼は奉納の趣旨を「古事記を読んで四国がイザナギノミコトとイザナミノミコトの国生みで二番目に生まれた島だと知った。私の住む千葉の安房地方は阿波忌部が開拓したと聞き、徳島とのご縁も感じる。作品は大麻比古神社のご祭神の二体が一緒に登場する天孫降臨の場面を描いた。大麻比古大神（神話では天太玉命）が天孫ニギノミコトにお供して降臨、猿田彦大神が一行の道案内をされた。遍路は阿波から始まる。私もここでお祓いを受け、猿田彦大神の道案内で再出発したい」と述べた。画伯はこの後、鳴門市の泉理彦市長を表敬訪問した。

雨の中劔神社夏祭り

8月30日、劔山の見ノ越にある劔神社（三好市東祖谷菅生見ノ越）で夏祭りが開か



劔神社の夏祭り



多様な栽培を調査（中央が稲垣教授）



民家で大師講（東みよし町）



シニアライフクラブで講演



庭にランが群生

後日、阿尾波鶏のミンチ

れた。本来は7月17日の予定だったが、台風11号接近のため中止となり、旧暦の7月17日に当たるこの日の開催となった。7月17日はイスラエルでも聖なる日であるらしい。

劔山へ行く途中、運転してくれた四国大学・上野昇講師が、つるぎ町鳴滝で禪姿になって禪をした。外温℃と寒いので、同行者は手を濯いだ。式典は馬岡秀雄宮司（48）の祝詞の後、全員が玉串奉てんをした。雨天のため、神輿は境内を練り歩き下の広場には下りなかった。昨年の夏祭りは雨天のため頂上に登れなかったで、今年こそはと意気込んでいたが、今年も雨天で駄目だった。来年に期待したい。その後の直会で美味しなお神酒を頂いた。この席でビデオ制作や国際ビジネス・サポートをしているアラン・ロウ、エリコ・ロウ夫妻やつるぎ町の桑平良得さんらと会

話を楽しんだ。

静大稲垣教授が視察

8月19日、静岡大学・稲垣英洋教授（農学博士）が来県、徳島大学・内藤直樹教授、林博章先生らと会合、翌日、県西部へ視察に出掛けた。穴吹町して原地区でブルーベリー栽培を見学、クヌギ、ミカン、シイタケ原木、カヤ場が一ヶ所に固まっているのに驚いたようだった。中野宮で笠仏の森を見た時「静岡に阿波井神社がある」と話してくれた。測名、から馬内を経て下山。午後は平石地区でオクラなど15種もの野菜や果樹を確認した。東みよし町で循環型モデル農業を視察したが、民家でお大師講が行なわれており、見せてくれた。教授は「多様性農業のモデルが続いている」と喜んでた。

シニアクラブで講演

9月10日、徳島シニア

イフクラブ（松口定員会長）は鳴門で恒例の梨狩りをした後、ホテル・アドインで食事会をした。この席へ筆者が講師として招かれた。ここ数年のことであるが、昨年までの徳島新聞入社同期の古谷君の姿が無い。今年になって鬼籍に入っていたのだった。電子書籍・エコジャ9月号のコーピーを20人余りに配り、下関市・角島にある古代の祭祀跡を訪ねた事や宇和海の日振島にある10世紀に海賊退治に行つたのに、頭領になつて瀬戸内海で暴れまくつた藤原純友の話などをした。1年に1回だが見知つた皆様に会えるのは楽しい。

狭庭は不思議の園

門の横に蔓が伸び囲いやヒマラヤ杉に巻き付いた。南瓜なら取り払おうと考えていたが、冬瓜だった。苗を植えたわけでは無いのに、鳥が運んできたのだろうか。3個は眼についていたが、蔓を除けてみたら4個あった。後日、阿尾波鶏のミンチ

で肉団子を作り、冬瓜とスープにしたら絶妙の味だった。

この夏、トマトの大玉苗は植えたが、あちこちから、勝手に小粒のトマトが生った。昨年は12月までトマトが採れたが、今年はどうだろうか。苗を植えたキュウリは植木に這いついて、20本以上採れた。お裾分けもしたが、9月になつても食卓に上つた。イチゴは最初に植えた苗が広がり、歪ながらシーズンにはそれなりに甘い実を付ける。今年初めてのももは収穫時期が一緒になり、長期に楽しめない事を知つた。柑橘類はスダチがシーズン。温州ミカンも順調に育っている。土佐ブントンは裏年だが、大小10個ほど生っている。東洋ランは庭の西側に広がり、築山の一角にも群生し、青い花を咲かせている。中国・大理から持ち帰つた「藍染の木」（板蘭根）は増えてきたし、イングリッシュローズという香りのある四季咲きのバラは次々に花を付けている。

今年の夏の暑さで、昨年友人から貰つた錦鯉5匹が死んでしまった。スイレンは次々赤い花を咲かせているが、鉢で2年程生きていた一匹の赤いメダカがとうとう姿を消した。